通巻 618 号

紅葉坂

教会だより

2020 年 8 月 NO.2
横浜市西区宮崎町 1
日本キリスト教団
紅葉坂教会
牧師　荒井 仁

説教

「鋤（すき）と鎌（かま）の平和」

荒井 仁

イザヤ書2章1節～5節

今日は平和聖日です。８月６日は広島、９日は長崎に、75年前、原爆が投下されて多くの尊い命が奪われました。二度と原爆による犠牲者が出されないように願って、日本基督教団の行事暦の一つとして定められました。

原爆の犠牲となって今日まで苦しんでいるのは、日本人だけではありません。当時、徴用工として日本で働いていた中国や朝鮮の人々も被爆しました。他の国々の人たちも被爆をしましたから広島、長崎では世界が被爆をしたと言うことができます。

被爆の歴史は75年前で止まりませんでした。大国が次々と核実験を行って１９５４年にはビキニ環礁でアメリカが水爆実験を行い、日本の第五福竜丸の乗組員が被爆します。今日では劣化ウラン弾という武器が中東地域で使われ被曝者が出て健康障害に苦しむ人たちがいます。これを扱ったアメリカの軍人も被曝をしました。核兵器ではありませんが、原子力発電所の事故は９年を過ぎて解決を見ないままに人も自然も継続的に被曝させられています。原爆投下は目に見えて壊滅的状況を作り出しました。しかし同じ核を使う原発の事故は目に見えにくい形で壊滅的状況を作り出しています。神の造られた自然と人間の命を守るため、私たちは核兵器に結びつくあらゆるものを廃棄する選択を迫られているのではないかと思います。

今日の聖句はイザヤ書２章１節から５節を選びました。イザヤは平和の道を示します。

「主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない。」

北王国イスラエルが大国アッシリアに滅ぼされました。その勢力はイザヤのいるユダの国を脅かします。大国の脅威にさらされる中、平和実現のために「剣」「槍」という武器を打ち直して「鋤」「鎌」とする幻を預言として語ります。農業で使う鋤と鎌は命を養うための食糧を育て収穫のために使われます。鋤を使って農作業をすると土の状態が固いか柔らかいか、水分がどの程度含まれているのか、手の感触と目で見ることができます。鎌を使って収穫するのは虫や鳥に囲まれての作業となります。鋤と鎌を使う農業は、神の造られた自然との対話の中で作業をし、収穫された物を人々のもとへ届けます。武器である剣や槍は人の命を奪うだけではありません。戦乱は町を破壊し畑という人の命を養う原点を荒廃させます。

宗教改革者のマルティン・ルターは、主の祈りについての解説の中で、「我らの日用の糧を今日も与えたまえ」と食べ物を求める祈りは平和を求める祈りであることを教えています。パンが手元にあるためには原料となる小麦ができる畑が必要です。収穫された物が私たちの許に運ばれてくるためには流通経路が平和でなければいけません。戦争の時には畑が荒らされ流通が途絶えてしまいます。だから食べ物を求める祈りは、平和を求める祈りなのだとルターは解説しています。このルターの教えにも重なって、イザヤは食糧を作り出す働きを重んじて、これが平和であると示しています。

イザヤの幻は、実現不可能な夢ではなく、現実に歴史の中で営まれ、今日、私たちの時代にも行われています。歴史の中で戦争の罪も続きますが、平和の幻も２７００年の間伝えられています。この幻が世界の隅々で実現して、平和が訪れることを期待したいものです。

「国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない。ヤコブの家よ、主の光の中を歩もう。」

（２０２０年８月２日礼拝説教より）